

こころほく・人と生きもの・支えあう会

グループ代表 新堂泰江 〒222-0004 神奈川県横浜市港北区大曽根台 22-14 ☎045-543-5124 ✉shinshin720@hotmail.co.jp

*** 目次 ***

- ⇒ Report I 「大倉山の三毛猫たんちゃん 町田へ行く」 阿部葉子 p.1
- ⇒ Report II 「六地区見守り隊、28年発足その後」 代表 紺野寿美子 p.2
- ⇒ Episode I 「幸せな家猫生活を願って」 K.N. p.2
- ⇒ Episode II 「みかん君、家猫になる！」 港北区師岡町 K.F p.3
- ⇒ 拡大・管理人日誌 新堂泰江..... p.3
- ⇒ 協議会報告 p.4
- ⇒ 活動の足跡 / 会計報告 / 編集後記..... p.4



Report I 「大倉山の三毛猫たんちゃん 町田へ行く」

阿部 葉子

野良猫たんちゃんは18歳の三毛猫です。

去年の11月15日に18年間住んでいた大倉山から東京の町田へ引っ越しして行きました。町田でフレンズ・オブ・アニマルズ(FOA)という犬猫の保護活動団体の理事長 舘田潤子さんのご自宅で余生を過ごすためです。18年間も外の生活しか知らない野良ちゃんを家の中に入れてしまう事に心配したり反対したりする方もいました。私も初めての事だったのでどのような結果になるのはわかりませんでしたが舘田さんの「大丈夫よ!!いつ来てもいいわ!!」という自信に満ちた言葉に力をもらいました。

たんちゃんは大倉山ヒルタウンに隣接する公園に18年前からいました。当時、大倉山ヒルタウンの中の有志の方々はその公園で20匹近い猫ちゃんのお世話をしていました。避妊手術を受けさせ、飼い主さんを見つけてあげたりして10年近く前には3匹までになっていました。有志の方々も段々人数が減っていき、ついにはお一人になって3匹にエサやりをしていましたが、その方も4年前に引っ越し事となり、私を含む3人が引き継ぐ事となりました。以前からたんちゃんとは顔見知りで懐いていましたので、ごはんをあげる事に不安はありませんでした。

ところが、その方が引っ越した途端にヒルタウン住人の方々のエサやりに対する非難が始まりました。男性の方のたんちゃんに対するいじめの行動がたびたび見られるようになりました。小さな怯えている無力な生き物に対して、さまざまなやり方で脅している姿を見て、本当に悲しい気持ちになりました。区役所へ相談にも行きました。

高齢である事も考慮して捕獲せずに公園内でのごはんやりを認めていただきましたが、反対派の方々が公園まで入ってきて公園内でもエサやりをするなど抗議してきました。小さな小さな体で公園の中で座っているのを見るのもいやなのでしょう。

私たちはたんちゃんの命を守るためにはどうしたら良いのか悩みました。猫は自分の置かれた状況を理解できるのでしょうか。公園に来なくなってしまいました。結局はこの事がたんちゃんには幸運をもたらしてくれましたが…。新しく移った場所は完全にヒルタウン敷地内でしたので、しばらくは隠れながらのごはんやりでした。

ある時、隠れ場所に近いヒルタウン住人のAさんが玄関前でごはんをあげて下さっている事がわかりました。Aさんとも話し合い、他の住人からエサやりをやめるように言われた時点で終わりにしていくことを条件として続けていただくこと事になりましたが、ついに住人の方から注意を受けてしまいました。

たんちゃんの命を救うためには保護してあげる方法しかないので区役所で紹介していただいた「かれん」の新堂さんにご相談させていただきました。新堂さんには親身になって話を聞いて頂き、早速、翌日に捕獲機をAさん宅玄関前に設置して下さり、本当に救われた気持ちになりました。

設置して5日目にたんちゃんが捕獲機に入りましたが、その5日間という間、Aさんとご家族の方は大変な思いであったろうと、本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

このようにしてたんちゃんは町田へ行く事ができました。舘田さんのおうちに着いてすぐに頭をなでる事もできたそうで、写真を見てびっくり致しました。翌日は病院へ行って診察を受け血液検査も異常なしという結果にも驚きました。舘田さんが「たんちゃん!」と呼ぶとニャーと鳴いて顔を見るそうです。「可愛い!」と言ってもらい、子どもをほめられている親の気分を味わいました。舘田さんが獣医師の先生に「この子は18年間外にいた猫で、今度家に来たのですよ」と言うと先生が「良かったね」と言ってくださったそうです。

“良かったネ、たんちゃん!!”◎

註：阿部さんは大倉山から町田までタクシーでたんちゃんを連れて行きました。阿部さんのたんちゃんを何とかしてあげたいという強い気持ちが沢山の協力を生み出したようです。



検査を受ける



野良生活長くても撫でて平気



TNR 活動後、地区内に生息するネコが周辺住民に及ぼす排泄や爪とぎ等、被害の軽減と住環境の回復を目的に、町会からの助成を受け、見守り活動を始めました。猫の減少が見られ、上記成果が見られるまで、と期間を区切って開始しました。ところが翌年5月頃から、毛並み、体格も良いきれいな飼い猫のような迷い猫が現れました。見守り隊メンバーから出没の情報や写真が届き、その猫への対応に苦慮しました。まず、飼い主探しと捨て猫かどうかの確認の為、町内の回覧にこの猫を照会し、掲示板にも尋ね猫として案内を作成、近隣の町会にも問いかけました。その間にも先住の猫達とのけんか、追いまわし等が発生。見守り隊としては、元居た場所にかえてもらうよう地区内から排除することに決定しました。理由は、迷い猫や捨て猫を捕まえ手術を施し、世話をするのは当初の目的から外れるだけでなく、見守り隊の活動に終着が見られなくなるからです。エサやりを制限して4か月。猫はやせて汚れ、猫好きな方には

目に余る状況となったとき、この猫の世話を近隣町会の方が申し出てくれたので、手術を決断しました。

何度か捕獲に失敗しましたが、数日の格闘の末、エサやり隊とご近所の協力によって病院へ運ぶことが出来た時には安堵しました。猫を通して日頃からのチームワークの良さが現れました。この時にも支えあう会のご指導、ご協力をいただき、また猫一匹捕まえることの苦労を私自身初めて知りました。

被害の多いお寺さんはいろいろ自衛策を取って下さり、ご近所も見慣れてきた猫達のすることを大目に見てくれています。来年度の助成金を早々に町内会の定例会に諮って決めてくれる町会長。皆さんご厚意とご支援で活動は続けられます。12匹でスタートした見守り猫、今確認しあっているのは8匹。3匹が行方不明、1匹は新しい飼い主のところへ行きました。

例年に増して寒い日が続く中、外で生きる猫達に早く暖かい季節が来ることを待ち望んでいます。☺



Episode I 「幸せな家猫生活を願って」

K.N.

ドラえもんは朝、駅に向かう道の途中にいる地域猫でした。私はその頃大倉山駅近くのアパートに住んでおり（現在は千葉県在住）、ドラえもん毎日顔を合わせていました。外猫にしてはずいぶん体格がよく、きれいにしているなあと思っていましたが、近くに住むIさんというご夫婦が、餌やりやお世話をされていることを後から知りました。Iさんご夫婦はドラえもん以外にも複数の猫の面倒をみられており、『ドラえもん』という名前はIさんから教わりました。ドラえもんは大変愛想のいい猫で、毎朝Iさん宅の玄関先に座り、通勤する人たちに朝の挨拶でもするかのように、顔を向けていました。また通りがかりの人たちも、ドラえもんを撫でたり、声をかけたりして可愛がっている様子でした。

昨年の夏ごろ、ドラえもんの首のあたりに直径3センチぐらいの大きなコブができました。ネットで調べてみると、なにか大病の恐れもあるようなことが書いてあり、私は大変心配になりました。こちらのボランティアのブログを拝見したことがありましたので、連絡をしたところ、迅速にご対応していただき、また病院の先生にも診ていただくことができました。コブは傷が化膿したもので、その後しばらくしたらすっかりよくなりました。私はコブができたときにドラえもんがどこか弱っているような、困っているような様子（私の気のせいかもしれませんが）が心に残り、ドラえもんを家猫とし

て引き受けられないだろうか？と思いました。今は若くて元気だからよいものの、ケガや病気をした場合にすぐに見つけてもらえないことを、不安に感じました。

しかし、私は当時ペットを飼えないアパートに住んでいたため、当時お付き合いしていた人（現在旦那さん）に「猫と一緒に住むのはどうだろうか？」と提案しました。彼は千葉県で一軒家に住んでいて「猫を飼いたい」と言っていたので、ちょうどよいと思ったからです。彼は私の提案を快諾してくれました。

私はボランティアさんとIさんに相談し、無事ドラえもんを家猫として引き受けることとなりました。（捕獲の際にもボランティアの方々に、大変お世話になりました。）

ドラえもんは今ではすっかり家猫として穏やかに暮らしています。親バカですが、ドラえもんは人の気持ちかわかるかのように、疲れている時などは顔をペロペロと舐めて励ましてくれます。こんなに優しく性格のよい猫は、他にいないのではないかと思います。Iさんや近隣の方々、ボランティアの方々ずっと可愛がられ、見守られて暮してきたおかげだと感じています。これまでドラえもんを可愛がっていた人々から預かった命であることの責任を感じながら、ドラえもんの一生を見守り大事にしていきたいです。☺



家猫生活に馴れて、くつろぐドラえもん



大倉山在住の N さんから支えあう会に相談があったのは昨年 11 月のことでした。

「近所の人懐っこい猫に夫婦でご飯をあげるようになった、どうも飼ひ猫ではなさそう、風邪を引いている様子、辺りの駐車場には猫よけペットボトルがあって心配だが、自分はペット禁止の賃貸住まい、どうするのがベストか教えてほしい」という内容でした。まずは、迷ひ猫の場合の対応、TNR の方法、飼ひ主を探す方法等を伝え、返信を待っていると、どうやら見ているだけに我慢出来なくなったのか、N さんから「ダンボール箱で捕獲しようとした」という報告がありました。当然ながら結果は「大暴れ、のち脱走」。警戒心も少し生まれてしまったようでした。

飼ひ主探しは後回しでとりあえず保護する決意をした N さんと、支えあう会メンバーとで捕獲方法を話し合いました。その結果、その猫（みかん君と命名）は「お触り OK」なのでキャリーバッグに誘導してみることにになりました。

一方、近所に住む会員の A さんから「その辺りに『イワオ君』という良く似た柄の猫がおり、TNR 済みで手厚く面倒をみている方がいる」との情報が寄せられました。写真判定の結果、残念ながらみかん君はイワオ君ではありませんでした。それでも、近隣の猫情報を交換することが出来て、私たち支えあう会にとっては大変有意義な出来事でした。

さて、小型犬も余裕で入る大きなキャリーを N さんご夫婦に貸

出して、捕獲の朗報を待つこと 10 日あまり。ついに N さんからメールが届きました。みかん君の捕獲が無事成功したこと、病院で去勢手術やワクチン、駆虫など全ての処置が終わったこと、更に、N さん同様みかん君に餌をあげていた近所のおじいさんが一時預かりをしてくれることになったこと、その間にペット可の物件に引越し、N さんご夫婦自らが飼う決意をしたこと(!!!)などなど、嬉しい報告がたくさん書いてありました。

その後、一時預かりのおじいさんが、せっかく保護したみかん君を外に出すと言い出したので、急きょ N さんご両親を説得し、N さんのご実家で家猫修行を開始することになりました。

他にも、一度は見つかった飼ひ主とのご縁がなくなってしまうたり、ご主人の猫アレルギーが判明したり、と紆余曲折はありましたが、みかん君は今 N さんご実家でヌクヌク生活満喫中です。N さんは猫を飼うのは初めてなのですが、病気やフードのことなどいろいろ勉強していて、今は歯磨きに挑戦中とのこと。歯磨きは「断固拒否！」のみかん君ですが、寝る時は一緒のお布団の中で腕枕してもらおうそうです(^^)

みかん君は幸せになりましたが、みかん君のお世話で実家に入り浸りの N さんと、猫アレルギーのご主人との夫婦仲を心配するハメにならないことを祈るばかりです・・・。

みかん君、猫に課せられた「人を幸せにする」という任務を、これからもちゃんと果たすんだよ～



Before 野良時代のみかん君



After 家猫になったみかん君



拡大・管理人日誌

黒白カウちゃんの外猫リタイア

10 年以上前から公園で世話をしていたカウちゃんが昨年夏から認知症気味で道路の横断も怪しく、そろそろ管理人宅へ引き取ろうと考えていました。カウちゃんと相棒の黒猫星君は公園至近のお宅のガレージに寝床があり、外猫としては異例な厚遇です。真っ白な高級車が入っているのに 2 匹のためにシャッターはいつも少し開けたままになっています。2 匹は結束が固く、互いをいつも気にしていました。年のせいかエサの時間になっても気付かずなかなか来ないカウちゃんを星君は心配している様子でした。

クリスマス伊の朝、カウちゃんはネズミ捕りシートを体につけてベトベトのドロドロになって現れました。だれかが仕掛けたネズミ捕りシートにかかってしまったのです。粘着剤が体全体に絡まり、ごみや落ち葉もついていました。病院で洗ってもらい、そのまま管理人宅のシェルター部屋の仲間になりました。ドーム型の寝床を用意しましたが、カウちゃんは慎ましくボロボロの籐かごがお気に入り、もうじき 18 歳でオムツをしている犬のジロウ君のそばで寝ていました。

一方、星君はいなくなったカウちゃんが管理人宅にいて思ってい

るようで、管理人の犬の散歩の帰りには必ず送ってくるようになりました。ニャーニャー鳴きながらついてきて家の前でひときわ大きな声で鳴きます。カウちゃんを連れ出して見せると、互いに鼻先でクンクンして納得した様子で公園に帰っていきます。星君にも我が家へおいでと言っているのですが、元気な猫には敷居が高いようです。

2 匹の結びつきは固く、いろいろな人や犬がやってくる公園で、安心な犬や人を見極め支えあって暮らしてきました。管理人とも 10 年以上の付き合いなので、体力が弱ってきたカウちゃんは迷いなく家猫となり、最近はシェルター部屋から個性的な猫たちがいる 2 階のリビングに勝手に移動して座り心地の良い椅子を占領しています。この根性と度胸にはびっくりします。

2008 年頃には十匹以上いた公園の猫もカウちゃんがリタイアして、今は 5 匹だけです。それにしてもこの冬は寒長く外猫たちには過酷です。せめてしっかり食べて乗り切ってもらいたいと願っています。

大倉山公園自主管理人 新堂泰江



活動の足跡



●10月(2017年)

・大倉山7丁目 TNR応援 13頭不妊去勢手術(費用支えあう会が負担) いなば動物病院 バディ動物病院 ラヴィ動物病院

●11月

・大倉山7丁目 TNR応援 5頭手術(費用支えあう会負担) ラヴィ動物病院

★大倉山7丁目は神奈川動物愛護協会が7頭手術(費用は近隣の方が負担)支えあう会が18頭手術(費用は支えあう会が負担)で全25頭の大プロジェクトでした。このうち2頭はボランティアが預かり、2頭はバディプロジェクトの譲渡会で新しい飼い主さんに巡り合うことができました。

・神奈川税務署近辺の家族猫についての相談を受ける。母猫は手術済み。

・子猫2匹手術 バディ動物病院(費用は相談者負担) 馴れているメス子猫はバディプロジェクト譲渡会で新しい飼い主さんに巡り合う。

・綱島西で突然亡くなった方のヒマラヤン母子をボランティア宅で預かる。

・大曽根1丁目マンションで排斥されていた猫の相談を受ける。捕獲機設置・アドバイス。猫の立ち寄り先お宅で5日かけて保護、相談者が町田の愛護団体主宰者宅へ搬送。(幸せになった猫たち参照)

・大曽根2丁目の方から病気猫の相談を受ける 相談者が保護・治療 大倉山動物病院(費用は相談者負担)

●12月

・師岡町会社の物置の子猫の相談を受ける。両親猫を不妊去勢手術 バディ動物病院(費用は支えあう会負担)。子猫は見失う。

・大曽根1丁目病気猫治療 バディ動物病院 退院後はボランティア宅に引き取り。

・大倉山公園高齢猫 ネズミ捕りシートにかかる 洗浄・治療バディ動物病院 退院後はボランティア宅に引き取り。

●1月(2018年)

・老猫の投薬温め治療



会計報告とお礼

2017年10月～2018年1月末



銀行振り込みや郵便振替などでいつもご寄付をいただき感謝申し上げます。直接お礼を申し上げるべきところ、紙面での挨拶をお許しください。また、お忙しい中お手渡しくださる皆様にも重ねてお礼を申し上げます。

猫たちの餌代はボランティアが各自負担していますので、ご寄付は猫たちの手術・治療、運搬、事務費などに使わせていただきます。誠にありがとうございます。

	収入	支出
9月末繰越金	371,229	
寄付金	116,760	
助成金	30,000	
会費収入	4,000	
医療費		227,310
雑費		400
通信費		11,627
小計	521,989	239,337
残高		282,652

【会費・寄付金振込先】

三菱東京UFJ銀行 大倉山支店 普通 0008270
こうほく・人と生きもの・支えあう会

郵便振替 00270-6-54901
こうほく・人と生きもの・支えあう会



「第三回港北区野良猫・地域猫支援協議会」のご報告

去る11月28日、『平成27年度 港北野良猫・地域猫支援協議会 第三回会議』が開催されました。前回から継続して話し合ってきた、今後の活動の方向性について大筋が固まりました。

- 来年度からは「協議会」ではなく「連絡会」となり、地域猫活動への支援を継続する。
- 目的は、野良猫をつくらない増やさないために、ボランティア等がつながり、協力し合い、港北区内での活動を行いやすくすること。具体的には、啓発ポスターの作成、地域住民へTNRの技術指導、ボランティア間の捕獲協力、協力病院の募集、区役所での捕獲機の貸し出しなど。
- 現委員に加え、港北区内在住でTNR活動実績のあるボランティアさんや動物適正飼育指導員の方を新会員に迎え、10名程度でスタート。
- 協議会としての募金箱の設置は終了となり、TNR(去勢・避妊手術)への助成金も廃止。
- 現在集まっている募金は、今年度中に限りTNRの助成に使うこととする。(30匹分)
- 残金は現協議会で年度内に使用用途を検討。使用用途は手術に限定せず、広報ポスターや貸出し用捕獲機の購入など、会の目的に則した使い方で活用する。
- 獣医師会の関わりについては、今後の検討事項。地域猫活動に対する姿勢が獣医師によって異なる現状、獣医師会ではなく理解の深い有志の獣医師からの協力が必要。

「連絡会」となることで様々な制約も無くなりました。是非、啓発セミナー開催を実現したいと思います。

◎ 編集後記 ◎

友達がサンクトペテルブルグへ行ってきた土産にエルミタージュ美術館の猫のメモ帳をくれた。エルミタージュ美術館の地下には猫部屋があり世話係がいて手厚く保護されているのだと知った。かつて、悲惨な戦争によって、元の猫の血が途絶えてしまったため、灰色の猫を古都ヤロスラブリから持ち込んだ。その末裔たちは、今日もエルミタージュ美術館で身分証を持つ正規ガードマンとして日々、美術品をネズミから守っている。ニュースレターのご意見・お問合わせは、編集担当:後藤尚味@gotonaomi419@gmail.com まで◎

BLOG: <http://sasaeaukai.blog.fc2.com/> **WEB**: <http://sasaeaukai.web.fc2.com/>

●こうほく・人と生きもの・支えあう会とは・・・

港北区で生活する人々や動物にとってやさしい地域をつくることをめざしています。

具体的な活動内容は; ①飼い主の居ない猫の不妊・去勢手術と保健衛生、②ファンドレイジング、③給餌活動、④啓発活動、⑤まちづくり、⑥広報。 当会では、随時会員を募集しています。